

森 まさこ内閣府特命担当大臣(男女共同参画)
ビデオメッセージ

内閣府特命担当大臣（男女共同参画）の森まさこです。

ご挨拶に先立ちまして、4月20日に中華人民共和国・四川省で発生しました大地震につきまして、中華人民共和国政府及び国民の皆様に、心よりお見舞いを申し上げるとともに、犠牲になられた方及びそのご家族に対して、衷心より哀悼の意を表したいと思います。

また、「第5回東アジア男女共同参画担当大臣会合」をご主催いただきました中華人民共和国政府及び中華全国婦女連合会の関係者の皆様の多大なご尽力に対し、敬意を表したいと思います。

本会合の開催に当たり、皆様と今後の東アジアにおける男女共同参画に関する課題等について、ご議論できることを楽しみにしておりました。

しかしながら、本日、国会における重要審議が行われており、欠席せざるを得ない状況となりました。

このため、このビデオメッセージにより日本の考え方をお伝えするとともに、内閣府大臣官房審議官の別府を私の代わりとして、議論に参加させたいと思います。

皆様のご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本会合につきましては、2006 年の第 1 回会合以来、これまで 5 回の会合を重ね、経済情勢等に応じた課題、新たな課題等への対応も含め議論を深め、更に閣僚級の間で優良事例が共有されることにより、参加各国の具体的な取組を促すなどの成果を上げてきました。今回、ご主催いただいた中華人民共和国政府及び中華全国婦女連合会のご尽力により、「ジェンダー主流化－成果と課題」など、東アジアにおいて共通して抱えている問題が取り上げられました。

こうした問題について大臣間で有益な議論が行われ、各国の取組状況等が共有されたことは、各国における取組に対し、大きな推進力を与えるものと考えております。

ご承知のように、今日、男女共同参画の取組を巡る国際的な枠組みにおいては、APEC の女性と経済に関する活動など、国際経済の中に女性の活躍が取り込まれ、各国共通して取組を促進するための動きが行われています。

その一方で、女性の人権については、昨年の国連婦人の地位委員会において合意結論を得ることができなかったように、文化的、社会的な背景に端を発する対立を超えることが困難な状況も見受けられます。

こうした中で、文化的、社会的な背景を共有する東アジア地域において、相互理解、認識の共有を行い、一致した取組を行わなければ、国際的な枠組みの中で、東アジアとしての影響力を行使することができなくなるおそれさえあります。

雇用と経済、女性への暴力、開発援助、女性と災害など ASEAN 域内だけでなく、周辺国と一体となって取り組むべき課題は、引き続き存在しています。

「東アジアの国」による「男女共同参画担当大臣の会合」が、グッド・プラクティスや教訓を共有し、域内の連携と協働を強化し、国際社会に発信していくためのネットワークとして機能していることの意義・重要性について、まずは皆様にご確認いただきたいと考えております。

その上で、「東アジア男女共同参画担当大臣会合の今後の発展」に関し、日本の立場をご説明したいと思っております。

昨年10月にラオスで開催されました第1回のASEAN女性大臣会合において、カンボジアから、「東アジア男女共同参画担当大臣会合」を引き続き存続させるため、「東アジア家族に関する大臣フォーラム」と統合してはどうか、とのご提案がありました。

日本としては、文化的、社会的な背景を共有する「東アジアの国」による「男女共同参画担当大臣の会合」として、引き続きこの枠組みが維持されるのであれば、カンボジアからご提案のあった案に限らず、柔軟に対応を考えたいと思っています。

また、「東アジア男女共同参画担当大臣会合」の第1回開催国として、この枠組みが引き続き維持され、東アジアとして一致した行動に向けた発展につながるよう、開催国に対する可能な限りの支援を行うことを検討してまいります。

今回のラウンドテーブルで、本会合の今後の発展に向けた皆様の真摯なご議論を期待いたします。

ありがとうございました。